

- ① 配本希望部数をご記入のうえ郵送またはFAXにてご連絡をお願いいたします。希望部数を優先して配本しておりますので、必ずお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書を注文扱いにて出荷させていただきます。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸いです。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。

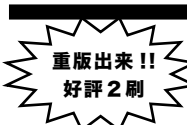
帖合・番線	部数	法政大学出版局 2021年3月9日配本 定価4070円(本体3700円+税) 田中裕二 著 企業と美術 近代日本の美術振興と芸術支援 ★ 日本近代の発展過程で、整備が遅れた公立美術館の代替機能を果たしてきたのは民間企業であった。本書は企業と美術の関係性を、とりわけ先駆的であった三越を中心に明らかにする。三井・三越の高橋義雄・日比翁助・三井高棟、三菱岩崎家の人々、大倉喜八郎、根津嘉一郎、石橋正二郎、さらには西武の辻井喬(堤清二)に至る経営者の系譜を辿り、彼らの経歴や美術観を通して、企業経営に美術が導入されてゆく背景を論じる。【企業文化史・美術】 ☆関連書: 高橋雄造『博物館の歴史』、井上さつき『音楽を展示する』(以上、小局刊)。	A5判上製・240頁 ISBN978-4-588-42021-4 C1070
-------	----	--	---

帖合・番線	部数	法政大学出版局 2021年3月25日配本 定価4070円(本体3700円+税) 梅田孝太 著 ニーチェ 外なき内を生きる思想 ★ 苦しみに満ちた「この生」に、救いを与えてくれるような外部はない。すべてがむなしく過ぎ去ってゆく仮象のごとき世界を、人はどのように肯定できるのか? ニーチェの生きた哲学的問いを、「夢」「自由」「意志」の主題に即して語り直し、ニヒリズムの克服を可能にする治療(セラピー)としての哲学の力を探る。実存の意味をめぐる、健康な哲学的思考にいきなう書。【哲学・思想】 ☆関連書: 齋藤元紀監訳、梅田孝太ほか訳、R. J. バーンスタイン『暴力——手すりなき思考』(小局刊)。	A5判上製・328頁 ISBN978-4-588-15117-0 C1010
-------	----	---	---

帖合・番線	部数	法政大学出版局 2021年3月25日配本 定価6160円(本体5600円+税) 加藤泰史、小倉紀蔵、小島 毅 編 東アジアの尊厳概念 欧米圏の尊厳理解を「普遍的」と見做し、非欧米圏が一方向的にそれを受容するという図式、日本・中国・韓国を中心に、東アジアから見直す。生命、伝統、仏教、儒教、人権、公共、歴史認識、そして人間へ。「尊厳」という言葉の意味が持つ差異性と同一性に多角的な焦点を当て、尊厳概念そのものを多元化して、相互理解への道を開く。関連文献の読書案内も付す。【哲学・社会】 ☆関連書: 許紀霖『普遍的価値を求めろ』、加藤泰史、小島毅編『尊厳と社会(上・下)』(以上、小局刊)など。	A5判上製・550頁 ISBN978-4-588-15116-3 C1010
-------	----	--	---

帖合・番線	部数	法政大学出版局 2021年3月25日配本 定価4180円(本体3800円+税) 法政大学大原社会問題研究所／鈴木 玲 編著 労働者と公害・環境問題 有害物質は工場内では労働者が労働過程を通じて罹患する職業病として、工場外では地域住民が環境汚染を通じて罹患する公害病として現れる。これまで社会学分野において個別に議論されてきた「労働」と「環境」の問題を、国内外の事例をもとに学際的に考察し、職業病や公害に対して労働者・労働組合・市民団体・政党がどのように結びつき、どのような活動を展開してきたのかを探る論集。【労働・環境】 ☆関連書: 大原社会問題研究所叢書『戦時期の労働と生活』『福祉国家と家族』(以上、小局刊)など。	A5判上製・288頁 《法政大学大原社会問題研究所叢書》 ISBN978-4-588-62544-2 C3330
-------	----	--	--

帖合・番線	部数	法政大学出版局 2021年3月25日配本 定価4730円(本体4300円+税) 酒井 潔 著 ライブニッツの正義論 ★ 激しい宗教対立に明け暮れた17～18世紀ヨーロッパにあって、宮廷顧問官ライブニッツはいかなる政治思想を抱き、著述し、実践していたのか。近代市民社会の政治原理を探究したホプズやロックらに比して知られること少なく、しかし現代の共同体論や福祉国家論にもつながる潜在力をはらんだ哲学者の政治思想を、『モノドロジー』や『弁論論』はじめ多様なテキストに基づいて論証する画期的研究。【哲学・思想】 ☆関連書: 酒井潔、佐々木能章、長綱啓典編『ライブニッツ読本』(小局刊)。	A5判上製・370頁 ISBN978-4-588-15115-6 C3010
-------	----	--	---

	部数	法政大学出版局 2021年3月出来予定 定価3630円(本体3300円+税) アラスデア・マッキンタイア 著／高島 和哉 訳 依存的な理性的動物 ヒトにはなぜ徳が必要か 伝統的な哲学が前提してきた、ヒトとそれ以外の動物を区別する根拠とは何か? 両者の間に引かれた境界線を、イルカなど他の知的動物たちとの比較を通じて批判するとともに、人間を孤立し自足した強い個人ではなく、傷つきやすく障碍を抱えうる動物、共同体のなかで「与える」だけでなく「受けとり」、他者への依存のもとで初めて自己開花しうる動物として理解する、徳倫理学の画期的な明察。【哲学】 ☆関連書: シュアミ&ダヴァル『スピノザと動物たち』、ドレイファス&テイラー『実在論を立て直す』(小局刊)。	四六判上製・288頁 《叢書・ユニベルシタス1076》 ISBN978-4-588-01076-7 C1310
--	----	---	---

ご担当者様 氏名: [] 担当ジャンル: [] TEL: []

* 配本部数等で事前にご連絡する場合がございます。上覧にご担当者様氏名・TELをご記入下さい。
* 宛名ラベルの内容に変更がございましたらお知らせ下さい。次回以降訂正致します。